

■母子保健対策について

平成 28 年度母子保健事業実績

平成 28 年度 実績と課題（★は計画指標の実績、目標値は平成 30 年度）

1. 妊娠期から出産・育児と切れ目ない支援体制の強化

（1）健やかな子どもを産み育てることができるように、妊娠中から産後を通した切れ目ない支援

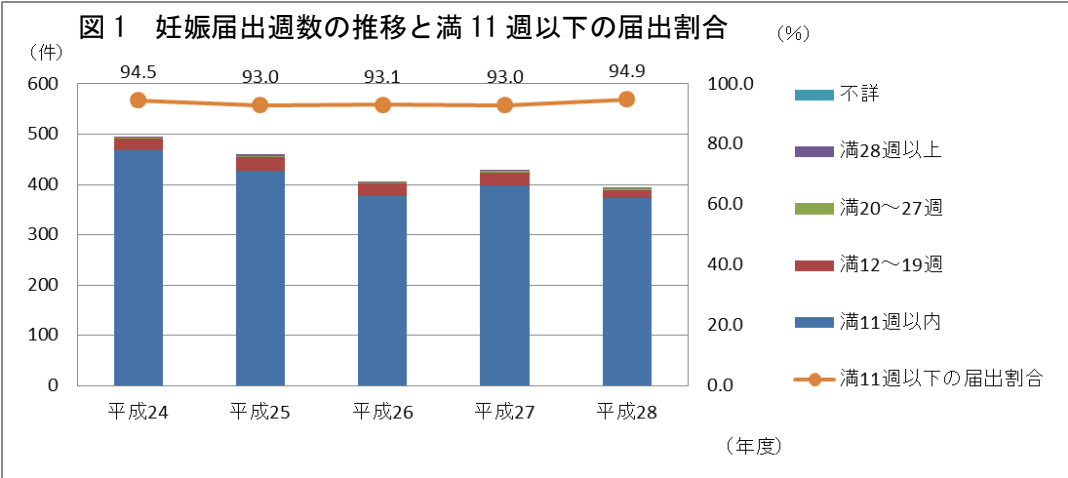
①妊娠届出数

- ・ 数は減少傾向。
- ★11 週以下の届出割合は 94. 9%と微増している。
（目標値 94. 5%）
- ・ 12 週以降の届出者は 20 人となっている。16 週以降の届出者は 7 人で、うち支援必要 5 人。外国在住 2 人。

②出産準備手当給付

表 1

対象者数(年度内妊娠 16 週到達者)	408 人
給 付 数	374 人
給付割合	91.6 %



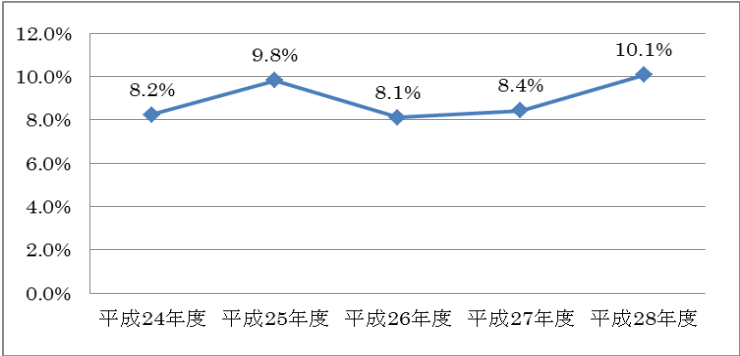
③妊娠ライフプランによる継続支援

- ・ 出産準備手当給付申請時に来所した全妊婦に面接を実施している。うち、妊娠ライフプランによる継続した支援を 122 人に実施している。妊娠中から産後の環境を調整し、産後の安心した生活につなげるなど、産後早期の対応が可能となった。
- ・ 妊娠ライフプランによる継続支援を実施した 122 人中、特定妊婦は 56 人(14. 1%/母子手帳交付数 398 人)だった。平成 27 年度の特定妊婦は 35 人（8. 2%）と比べても増加している。転入者や実母との関係がない、パートナーがいない等、産後の支援がない方や、精神疾患の既往や治療中の方や、経済面や養育面で支援が必要な家庭が増えている。

④訪問指導

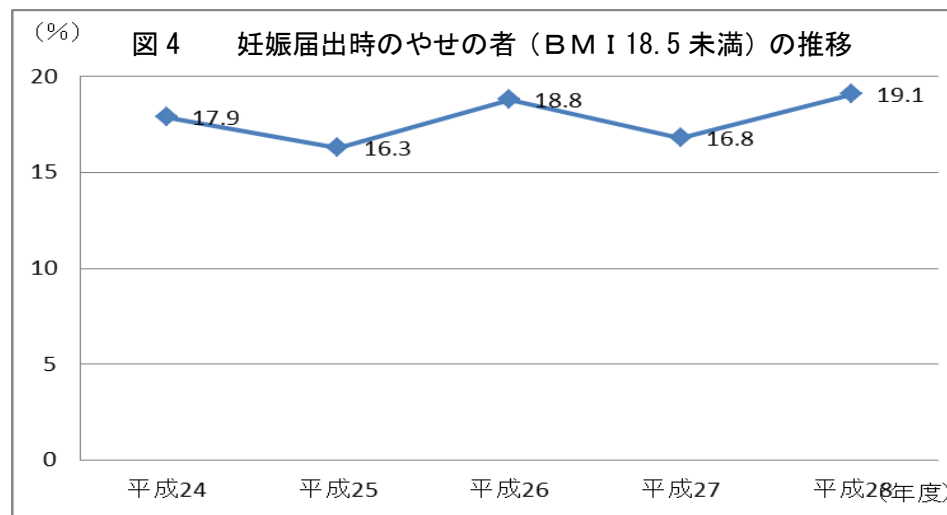
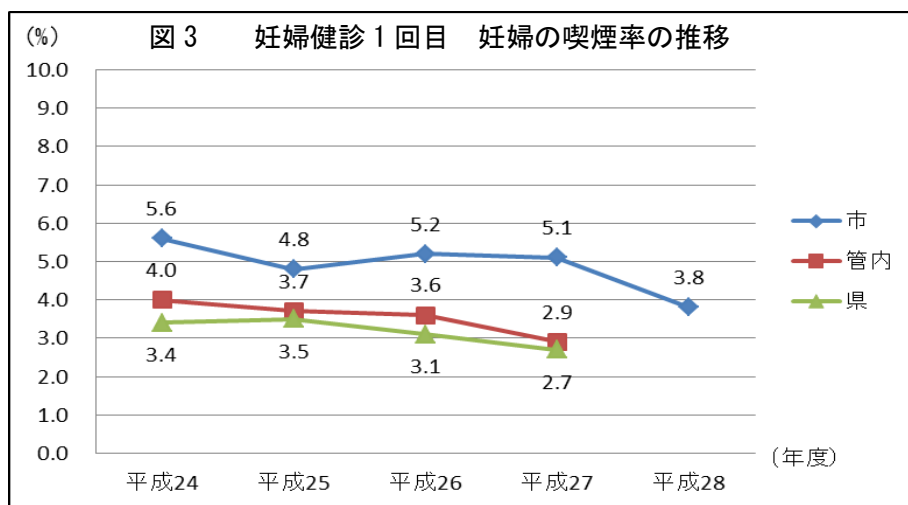
- ★産後うつ疑い（1 か月健診）は 10. 1%で平成 27 年度の 8. 4%から増加した。
（目標値 8. 0%）（平成 27 年度県平均 8. 1%）
- ・ 増加した要因として、産後支援がない方や精神疾患の既往や治療中の方など支援が必要な家庭が増えていることが影響している。引き続き妊娠期からの切れ目のない支援を継続していく。

図 2 産後うつ疑いの割合の年次推移



（２）低出生体重児の予防支援

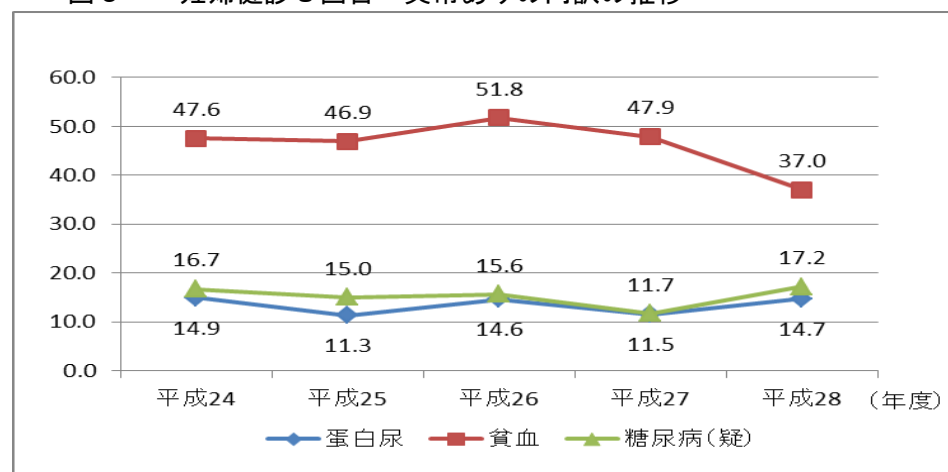
- ★妊婦健診 1 回目の喫煙率は県や管内に比べ高めに推移しているが、平成 28 年度は 3.8%と昨年に比べて減少した。（目標値 2.0%）
- ★非妊娠時の「やせ」の割合は 19.1%であった。（目標値 16.0%）
- ★飲酒率は例年約 3%だが平成 27 年度 1.9%、平成 28 年度 2.0%と減少傾向。（目標値 2.0%）
- ★妊婦（経産婦）の 3 食摂っている割合は 81.4%であった。（目標値 92.5%）
- ・妊娠届出時に把握できる「やせ」等は低出生体重児のリスクをふまえて、胎児の成長を考えた食事指導など具体的に指導していく。



妊婦健康診査

- ・妊婦健康診査 8 回目（妊娠 30～31 週ごろ）の受診結果では、貧血の所見は減少している。妊娠高血圧症候群（蛋白尿所見有）と糖尿病（疑）の所見は微増している。
- ・出産準備手当給付申請時や妊娠期パパママ教室など、機会をとらえて、母子手帳の検診結果を妊婦と一緒に確認し、タイムリーな保健指導につなげていく。

図 5 妊婦健診 8 回目 異常ありの内訳の推移



① 妊娠期パパママ教室

- ・低出生体重児の予防のための、母体の健康状態と胎児への影響等について、食生活や健康管理などの知識を深め、妊婦自身が食事を含めた生活習慣を見直すきっかけにしている。
- ・母子手帳交付時にその場で予約できる体制とした。その結果、教室の参加率は 30.5%、初産婦の参加率は 63.3%に増加した。

図 6 パパママ教室初産妊婦参加率

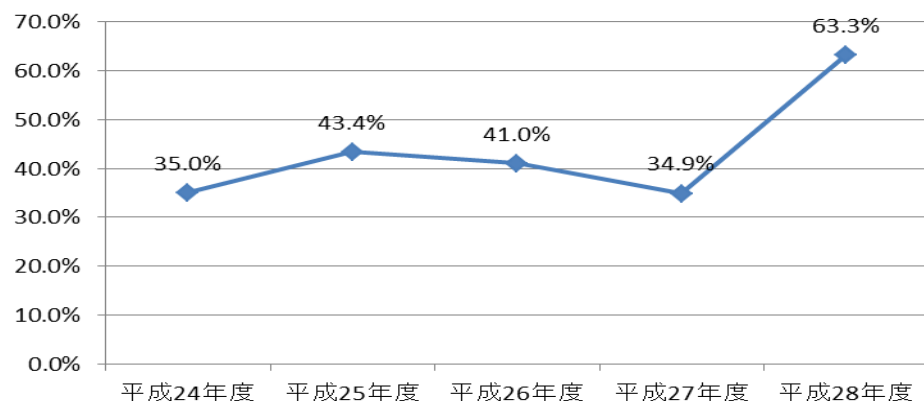
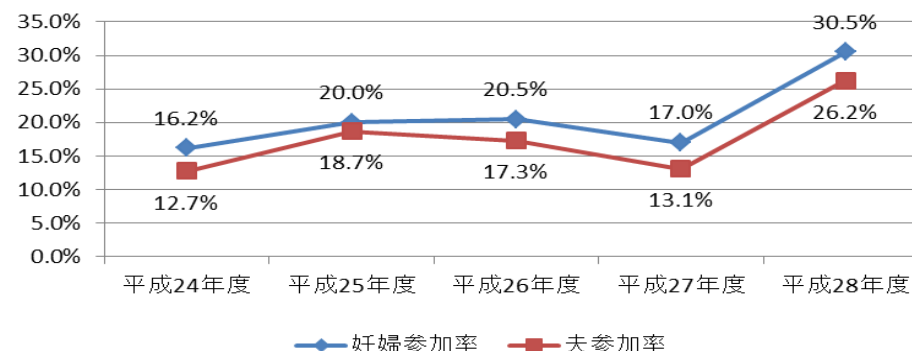


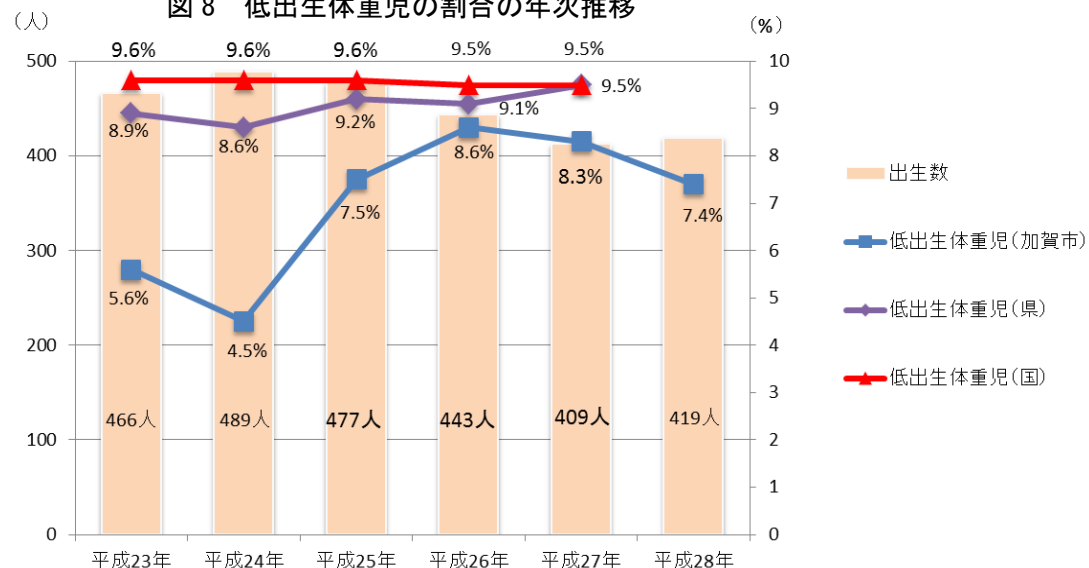
図 7 妊娠期パパママ教室参加率



低出生体重児の状況

- ★平成 28 年の 2500 g 未満の低出生体重児の出生は 7.4%と減少した。（目標値 6.0%）
- ★平成 28 年の 1500 g 未満の極低出生体重児の出生は 0.96%であった。（目標値 0.6%）
- ★正期産に占める低出生児の割合は 4.4%で平成 27 年の 5.3%から減少した。（目標値 3.3%）
- ・引き続き、低出生体重児の予防対策として、母子健康手帳交付時から、低出生体重児のリスクと予防の視点で情報提供や必要な人は継続支援を行う。

図 8 低出生体重児の割合の年次推移



(3) こどもの健やかな発達・発育のための支援

乳幼児期は親が子の生活環境を整えていく時期であり、生活リズムや食事、遊び(かかわり)について、発達段階に応じた対応などの各種健診や教室で指導等を実施している。

①各健診受診率

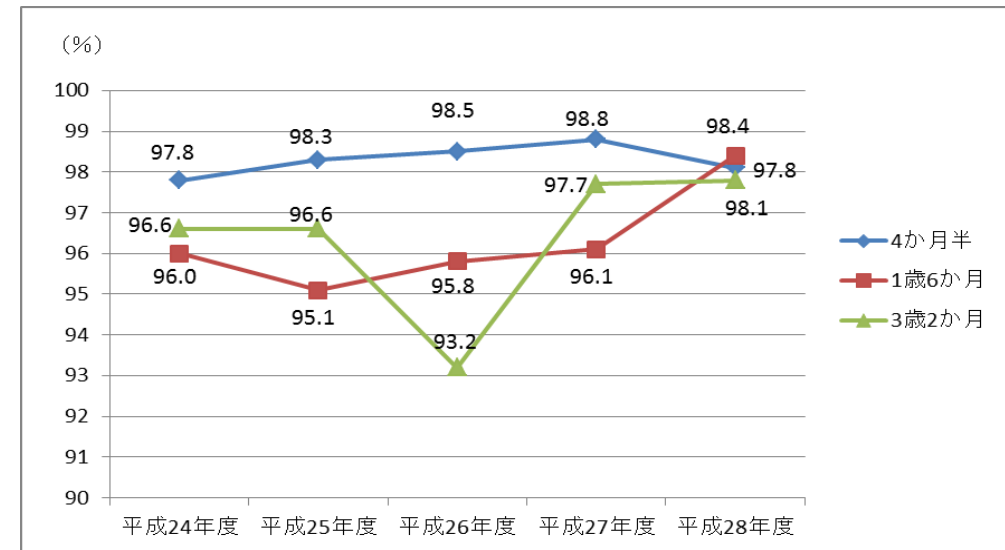
- ★4 か月半健診—98.1% (目標値 98.8%)
- ★1 歳 6 か月児健診—98.4% (目標値 97.2%)
- ★3 歳 2 か月児健診—97.8% (目標値 97.0%)

表 2 平成 28 年度 乳幼児健診未受診者理由

(単位:人)

			4か月半 児健診	1歳6か月 児健診	3歳2か月 児健診
H28年度末時点での未受診者数			8	7	11
次年度受診者数(平成29年4月時点)			1	4	3
未受診者数			7	3	8
未受診理由 (延べ人数)	児の理由	入院施設入所中	3	0	0
		医療機関管理中	1	1	1
		保育所入所	0	0	7
		その他	0	0	0
	保護者理由	健診前に転出	0	0	0
		住所地に住んでいない	1	1	1
		仕事が休めない	0	1	1
		その他	2	0	0
現時点で未把握			0	0	0

図 9 乳幼児健診受診率

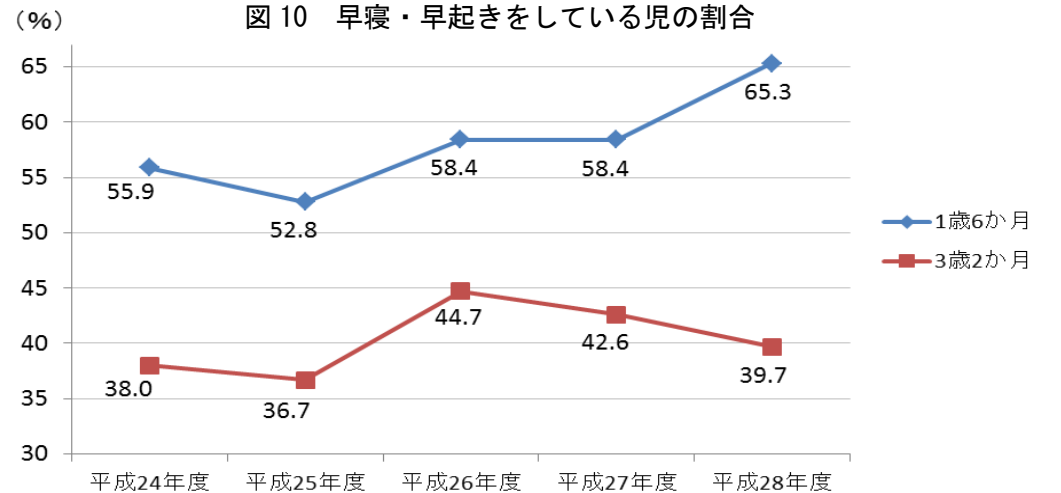


★早寝早起きしている児の割合

1 歳 6 か月児健診では 65.3%(目標値 55.0%)

3 歳 2 か月児健診では 39.7%(目標値 45.0%)

図 10 早寝・早起きをしている児の割合

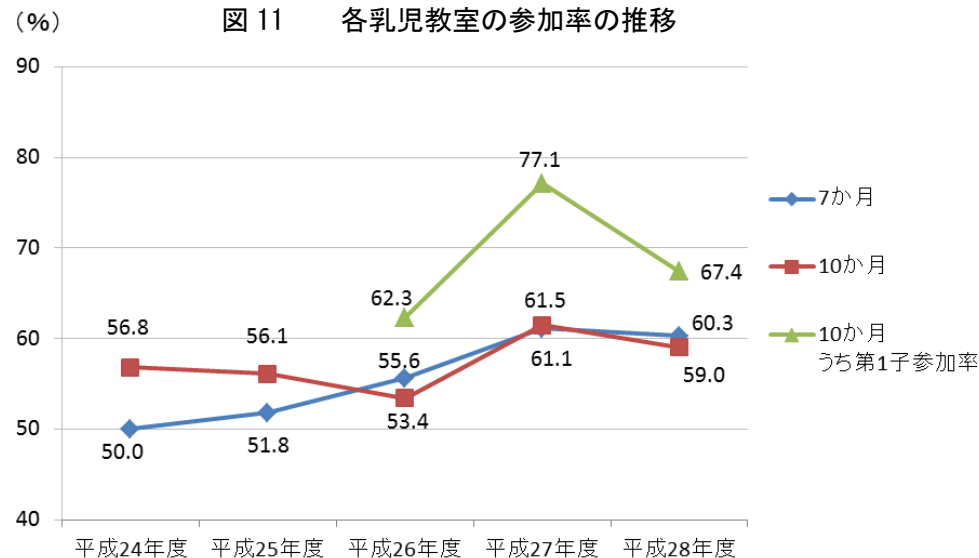


②各教室参加状況

- ・各教室では、子どもの発達・発育の見通しについて集団教育及び個別相談を実施している。
- ・7 か月離乳食教室—教室参加率は平成 28 年度は 60.3%だった。
- ・10 か月子育て教室—★第 1 子の参加率は平成 28 年度は 67.4%と前年度より減少した。（目標値 70.0%）

教室参加理由は離乳食や児の発育を知りたいと言う人が多く教室参加によって 98.7%の人が聞きたいことは解決できたと事後アンケートで回答している。

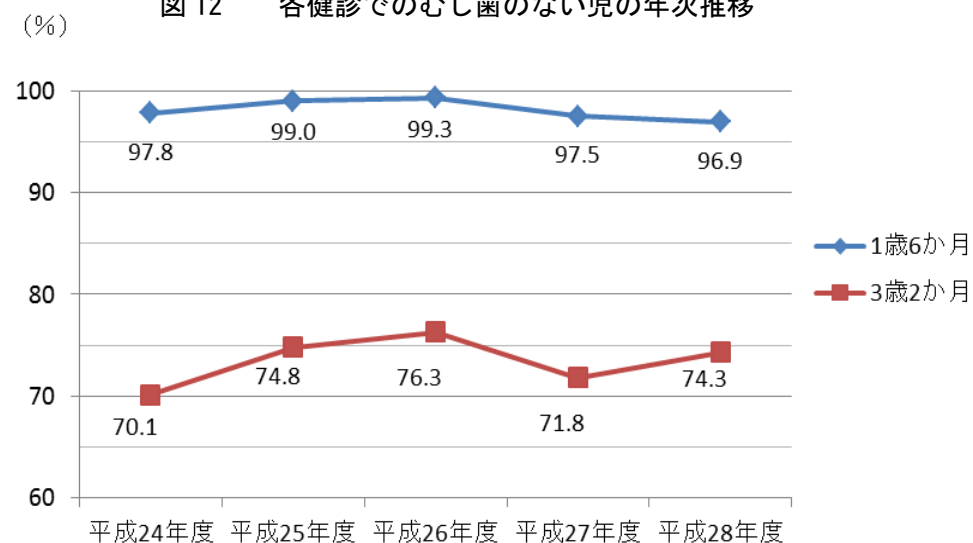
図 11 各乳児教室の参加率の推移



③むし歯予防

- ・1 歳 6 か月児健診では平成 28 年度は 96.9%と減少傾向
- ・3 歳 2 か月児健診では平成 28 年度は 74.3%と平成 27 年度に比べやや増加（目標値 78.8%）
- ・年 1 回の「歯と口の健康週間行事」に併せたフッ素塗布や、保育園等での出前講座、健診時の個別相談・指導を継続している。
- ・むし歯予防は歯みがき習慣だけでなく、ジュースや甘い物、だらだら食いなど養育環境も影響することから、むし歯の本数が多い児は、要支援家庭として保育園などと母親支援を行っている。

図 12 各健診でのむし歯のない児の年次推移



④予防接種

- ★1 歳 6 か月児健診時における 4 種混合(初回)、MR の予防接種を終了者の割合は、4 種混合は 97.1%、MR は 86.7%であった。(目標値 4 種混合 97.0%、MR 96.0%)
 - ・予防接種の種類が増え、1 歳 6 か月までに終了できない者がいる。
 - ★1 歳までに B C G を終了しているものの割合は前年度に比べ減少している。(目標値 95.0%)
- 広報・ホームページによる接種勧奨に加え、個別の健診・教室などの機会をとらえた接種勧奨、未接種者への接種勧奨を行っている。

※4 種混合：ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ
MR：麻しん・風しん

図 13 1 歳 6 か月児健診時における 4 種混合ワクチン
MR (麻しん・風しん) ワクチン接種率

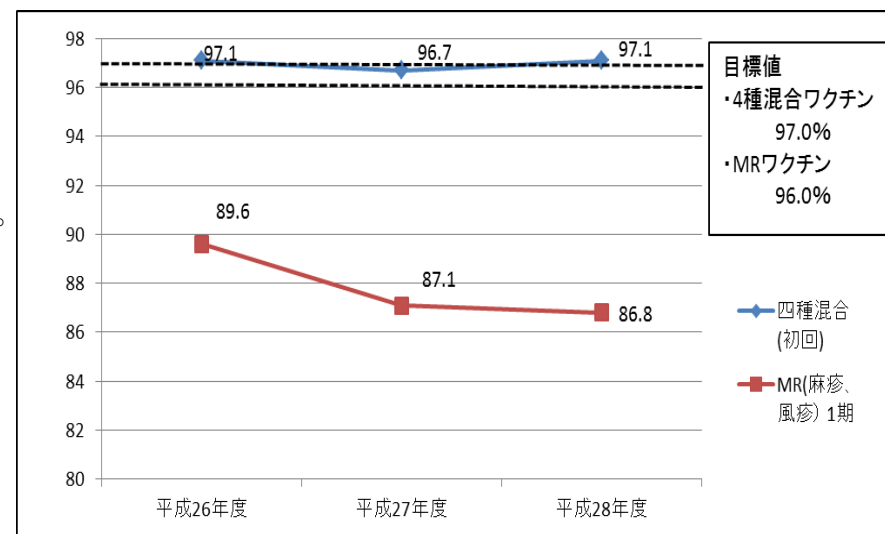


図 15 1 歳までの B C G 接種率

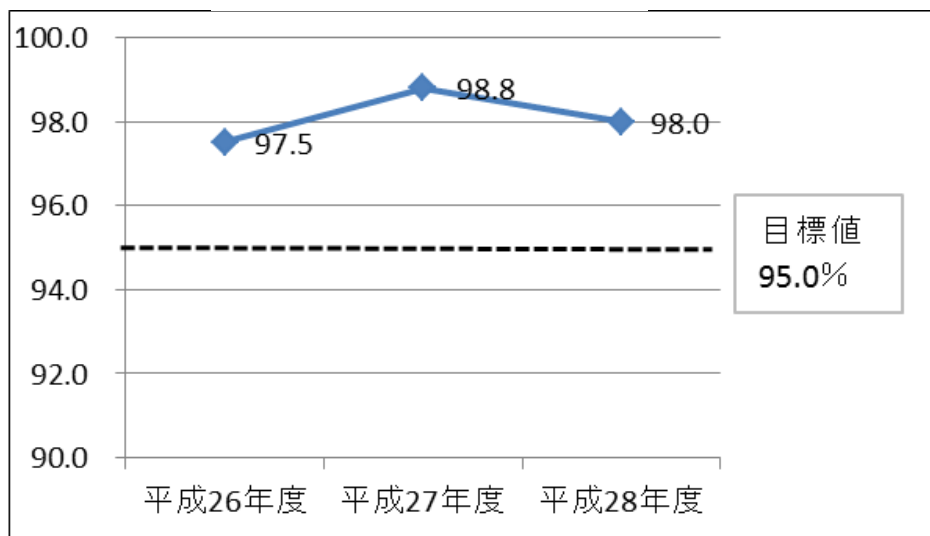
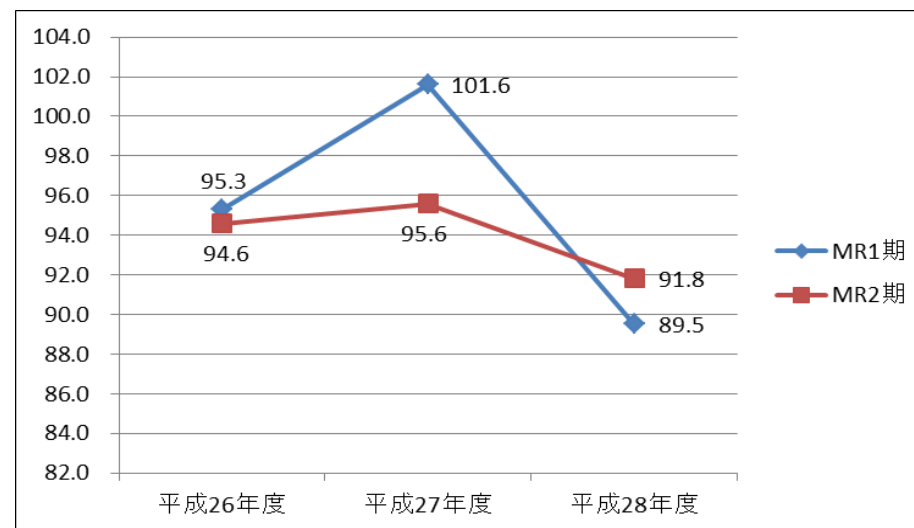


図 14 MR (麻しん・風しん) 1 期、2 期接種率



2. 育てにくさを感じる親に寄り添う支援

＜H28 年度 各種健診でのアンケート調査結果より＞

★育てにくさを感じたときに対処方法を知っている親の割合は、1 歳 6 か月児健診では 88.7%であるが、3 歳 2 か月児健診ではその割合が減少し、22.3%（27 人）が対処法を知らないと答えている。

★子どもの社会性の発達過程を知っている親の割合は、国が平成 26 年度に調査した結果では 83.3%であったことから、加賀市では各健診とも国の調査結果に比べて子どもの社会性の発達を知っている親は多い。しかし、各健診で比較すると、3 歳 2 か月児健診での子どもの社会性を知っている割合が低くなっている。

- ・各教室や健診を通して、子どもの発達過程をふまえた見通しや対処法の情報提供を行う。
- ・各手続きの際にも気軽に相談できる相談窓口の実施。
- ・それぞれの親の、育てにくさや困り感等に寄り添う支援のため、母子保健事業の機会だけでなく、子育て応援ステーションや保育園等、他機関とのネットワークにより、育てにくさの不安解消につなげる。

※ 参考（図 17「子どもの社会性の発達を知っている」の内容）

- ・4 か月半児健診—半年から 1 歳までの子は「親の後追い」を知っている
- ・1 歳 6 か月児健診—1 歳 6 か月から 2 歳のこどもは「何か興味を持った時に指さしで伝えようとする」を知っている
- ・3 歳 2 か月児健診—3 歳から 4 歳までの多くの子どもは「他の子どもから誘われれば遊びに加わろうとする」を知っている

図 16 育てにくさを感じたときの対処方法を知っている親

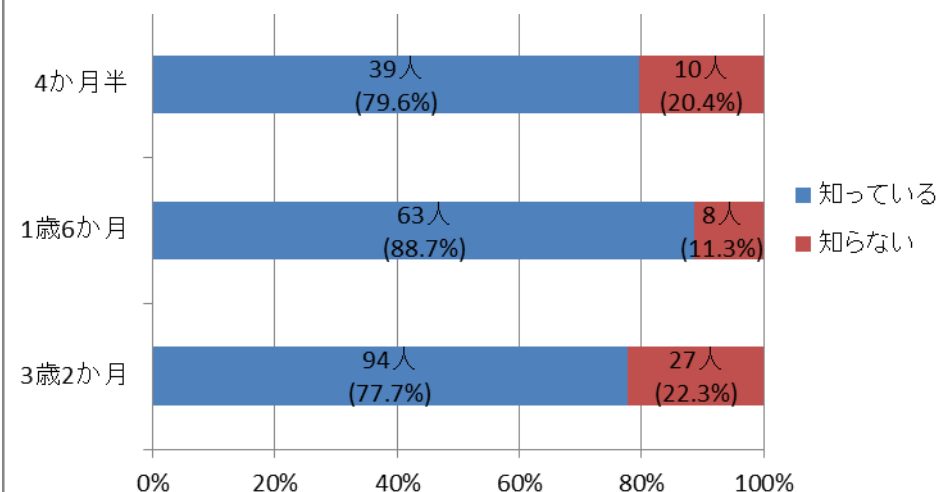


図 17 子どもの社会性の発達過程を知っている親 ※

